

ان شاء الله ولد



インシャツラー・ワラド

TUFS Cinema とは……

東京外国語大学TUFS Cinemaは、映画を通じ、世界の諸地域における社会・歴史・文化の理解を深めることを目的として行っています。

本作の舞台は中東のヨルダンです。タイトルは「きっと男の子だろう」を意味します。誰が、なぜ、「男の子」を望んでいるのでしょうか？

上映後トークには、ヨルダンの相続法と社会状況の解説をします。本作を通じてヨルダンのジェンダー状況を一緒に考えてみましょう。



©Pyramide International

上映日時 2026年

7月10日

16:00上映開始 (開場15:40、終了予定19:00)【金】

場所 東京外国語大学

アゴラ・グローバルプロメテウス・ホール
(東京都府中市朝日町3-11-1、西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分)

プログラム

映画『インシャツラー・ワラド』本編上映(110分)

上映後解説／トーク

白杵 悠

(日本学術振興会特別研究員(RPD)／上智大学)

司会・解説 竹村 和朗 (東京外国語大学)

共催 東京外国語大学TUFS Cinema
科研費基盤研究(C)「現代エジプトにおける家族間紛争の解決過程と法に関する研究」(代表:竹村和朗)
上智大学イスラム地域研究所

協力 東京外国語大学多言語多文化共生センター

入場無料
事前登録は
こちら



<https://sanda.tufs.ac.jp/event/tc260710form/>

※事前登録がなくてもご来場いただくことは可能ですが、事前にご登録いただくとスムーズにご入場いただけます。定員を超える場合は、事前登録を済ませた方を優先させていただきます。

[お問合せ]
東京外国語大学 広報・社会連携課
(TUFS Cinema担当)

TEL 042-330-5441
平日9:00-17:00 (12:00-13:00は除く)

Email tufscinema@tufs.ac.jp

詳細は TUFS Cinema ウェブサイトにて
<https://www.tufs.ac.jp/tufscinema/>



上映日

2026年7月10日(金) 16:00上映開始(15:40開場、19:00終了予定)

ヨルダン映画上映会

インシャッラー・ワラド

監督:アムジャド・アッラシード (Amjad Al Rasheed)

脚本:アムジャド・アッラシード (Amjad Al Rasheed)

ルーラー・ナーセル (Rula Nasser)

デルフィーン・アゲー (Delphine Agut)

出演:ムナー・ハワー (Mouna Hawa)——ナワール

ハイサム・オマリー (Haitham Omary)——リファイ

ユムナー・マルワーン (Yumna Marwan)——ロレーン

サルワー・ナッカーラ (Salwa Nakkara)——スアード

ムハンマド・アルジーザーウィー (Mohammad Al Jizawi)——アフマド

イスラーム・アルアワディー (Eslam Al-Awady)——ハサン

セリーナ・ラバブア (Seleena Rababah)——ノラ

音楽:ジェリー・レーン (Jerry Lane)

撮影:小野山要 (Kanamé Onoyama)

受賞歴: 2023年第31回カメラマージュ国際映画祭 監督デビュー作品
コンペ部門 ゴールデンフロッグ賞受賞 (監督)

2023年第76回カンヌ国際映画祭 ガン財団配給賞受賞 (監督)

ヨーロッパ・シネマ・レーベル賞受賞 (監督)ほか



あらすじ

ナワールは夫と幼い娘とともに、アンマンにある小さなアパートに暮らしていた。彼女の日常は夫の急死により一変する。

ナワールは夫が残したアパートに住み、介護士の仕事を続けて、生きていこうとしたが、夫の兄弟リファイは夫に貸していた借金が未払いであることを告げ、アパートと自動車売り払い、遺産の半分を引き渡すように求めてきた。

窮地に陥ったナワールは、「私は妊娠している。きっと男の子だろう (インシャッラー・ワラド)」と言い、問題の引き伸ばしと打開策を探る。

2023年/ヨルダン/110分/アラビア語/日本語字幕

原題: Inshallah walad



©Pyramide International

本作について

主人公ナワールは、ヨルダンの首都アンマンに暮らす、既婚のムスリム女性で、一人娘を育てながら、自身も介護士として働き、穏やかな暮らしを送っていた。夫の予期せぬ急死は、彼女に多くの問題を突きつけた。男性中心のヨルダン社会において、ナワールは寡婦として貞淑な振る舞いを求められつつ、主たる稼ぎ手とならざるを得ず、他方での世話は依然として彼女の責任とされる。また、イスラーム法の影響下にあるヨルダン相続法では、夫の遺産は、息子がいない場合、少なからぬ一部が夫の親戚のもとに渡る。こうした問題を解決すべく、ナワールは夫の兄弟リファイを相手取り、二度三度と裁判所に赴き、男性裁判官の前で意見を述べ、行動する。ヨルダン社会の現実、そこを生きる女性たちの思い、苦しみ、そして、力強さが、本作には表れている。

上映後解説／トーク

臼杵 悠 日本学術振興会特別研究員RPD／上智大学

竹村 和朗 東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 准教授

会場

東京外国語大学 アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
(東京都府中市朝日町3-11-1)

お問い合わせ

東京外国語大学 広報・社会連携課 (TUFs Cinema担当)

TEL 042-330-5441 平日9:00~17:00 (12:00~13:00は除く)

Email tufscinema@tufs.ac.jp

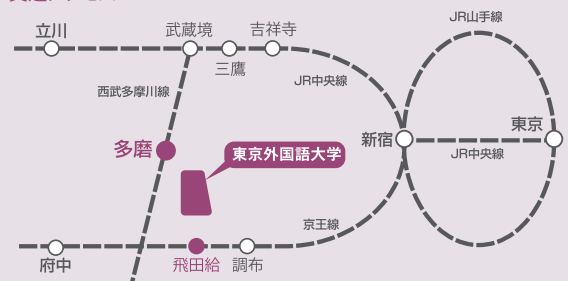
Facebook @tufscinema.pr X(Twitter) @tufscinema

入場無料／事前登録制

<https://sanda.tufs.ac.jp/event/tc260710form/>



交通アクセス



◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分(JR新宿駅から約40分)

◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車